

会議名称：平成30年度9月期古賀市社会教育委員の会議

日時：平成30年9月19日（水） 19時～20時30分

場所：古賀市役所 第2委員会室

主な議題：①第5回古賀市生涯学習笑顔のつどいの反省について

②今後の古賀市生涯学習笑顔のつどいの方向性について

傍聴者数：なし

出席者：松本委員、松末委員、船越委員、角森委員、國友委員

上野委員、井浦委員、村山委員、平島委員、檜山委員

（以上委員10名）

青谷教育部長、中村生涯学習推進課長、柴田参事補佐、森田

欠席者：なし

事務局：生涯学習推進課社会教育振興係

配布資料：レジュメ

会議内容：以下のとおり

松本議長：

皆さんこんばんは。定刻になりましたので会議を始めます。9月2日に実施いたしました、笑顔のつどいでは、出演団体の皆さんにとってもいい発表をしていただきました。本日はその総括ということで、第5回生涯学習笑顔のつどいの反省をしたいと思います。

それでは協議事項にうつります。「2. 協議事項（1）第5回古賀市生涯学習笑顔のつどいの反省について」事務局からお願いします。

事務局：

資料の2枚目に、第5回古賀市生涯学習笑顔のつどいの出席者数及びその内訳について示しております。当日の資料配布数は136部であり、出演者の方を含めると151名が参加されています。また、当日の進行につきましては、終了の時刻が予定時間より8分ほど遅れて終了しております。

（事務局よりアンケートの集計結果および添付資料のデータについて各種説明を行う。）

松本議長：

資料の量が多いため、10分ほど目を通す時間を設けます。その後にご意見を出していただきたいと思っております。

（各自添付資料を読む。）

松本議長：

それではまず、出席者の詳細と当日の進行の部分までを見ていきたいと思います。

出席者の詳細について昨年度と比較しますと、資料配布数が142部であったのが今年は136部ということで、大きな変動はありませんね。出演者数については、出演団体によって大きく変動しますので、昨年度よりも減少したことは仕方がないと思います。

井浦委員：

出席者の内訳ですが、あらためてみますと、学校関係者とPTCAの分類が難しいのではないかと思います。やはり、PTCAイコール学校関係者となりますので、当日いらっしゃった保護者の方の中には、学校関係者の方に記入された方もいらっしゃるのではないかと思います。学校関係者とPTCAについては、来年度は一本化して記載してもいいかと思います。

檜山委員：

民生委員へのお知らせについてですが、民生委員の定例会までにチラシが完成していれば、皆さんに直接お渡しすることができるんですけど、昨年と今年は定例会までに完成が間に合っておりません。来年は定例会に間に合うようにチラシの作成を進めたいと考えています。

松本議長：

いつまでに作成すれば間に合いますか。

檜山委員：

定例会は毎月実施しておりますが、8月のみ定例会が休みとなっております。ですので7月までに完成していれば、直接お渡しすることができます。

事務局：

日時や出演団体は、早い段階で決定するため、チラシが完成していなかったとしても案内文等をお渡しすることは可能です。来年度は早めに周知させていただこうと思います。

平島委員：

参加者の少なさは考えなければならないかと思います。なぜ参加していただけないのか。私の場合は文化協会にも所属していますが、呼びかけてもなかなか参加にはつながらないのが現状です。もうひと押し何かが必要なのではないでしょうか。

また、時間に関しましては、午前中で終わる時間帯が良ければ現状のままでもいいとは思いますが、午後から実施したほうがいいのかどうかは、再度検討する必要があるかと思います。

松本議長：

では次に、所要時間とアンケート結果について、ご意見をお願いします。

角森委員：

校区別の参加者人数に着目すると、校区コミュニティが盛んな所は参加者も多いように感じます。それから、初参加の人が54名と非常に多い気がします。これは出演団体と関係のある人が参加したとみることができないのでしょうか。出演団体に応じて参加者が大きく変わったとしても、それをきっかけとして何度も参加する人が増えるといいですね。

松末副議長：

自分に関係する団体が出演することで、参加しようとする人はいると思います。その中では初参加の人も多いようですので、いかにこの輪を広げていくかが課題になると思います。それから、毎年の課題として若い世代が少ないことや、子ども会育成会関係者が少ないことを考えますと、来年度は市子連のような団体に来ていただいて、見ていただいて、この活動を知っていただくことで、広げることができると思います。市子連も活動分岐点に来ていると思いますので、これをきっかけに色々な所とつながっていくと思います。

上野委員：

笑顔のつどいは市民活動の発表の場、交流の場であると思います。若い世代の参加が少ないとの意見も出ておりますが、市民活動の中心となっていっしょなのは50代、60代、70代の方であるという現状をふまえると、今後笑顔のつどいではどのような所にターゲットをもっていくかを考える必要があるのではないのでしょうか。

松本議長：

それでは次に、笑顔のつどい当日の発表内容についてアンケート結果をもとに考察したいと思います。10分ほど時間を設けますので、各自アンケートを読んでいただき、その後にご意見を出していただきたいです。

(各自アンケート結果を読む。)

井浦委員：

具体的な意見・感想についてですが、「古賀市の様々な活動を知ることができて大変有意義でした。」、「チラシは見たことある、名前は知ってるけど…という程度だった活動内容が具体的に知れる機会があった。」、「地道に生涯学習の活動をされている方々が笑顔のつどいで発表されて、市民の方々に知っていただく良い機会になっていますね。」、「萩尾先生の助言が大変わかりやすかったです。アトラクション2団体の活動を初めて見ましたが素晴らしかったです。サブタイトル、素敵です。」といったように非常に嬉しい評価を頂いております。しかし一方では、「全体的に大人の勉強会でしたので、子どもに対して行ってほしいと思います」という意見も出ております。これは、つどいのあり方自体についての

評価になってきますが、勉強会としてとらえた場合は非常にいいものだと思います。反面、アンケート結果から、来場された方の皆さんが勉強会を期待されているわけではないこともわかります。これは今後のつどいのあり方、方向性について考えていかなければならないと思いました。

松末副議長：

今回西校区コミュニティからの参加が多かった一つの要因として、青柳校区が実践している通学合宿を参考にしたいという気持ちで参加した方が多かったことが挙げられます。アンケート結果にもそのような意見は多くみられます。似たような活動をしている団体を参考にしたいという視点を持って、参加される方は多いと思いますので、各所で盛んに行われている活動をしている団体に出演していただくことで、来場者も増加すると思います。ですので、そういった活動も交えつつ、特色のある活動も入れていくのがいいのかなど。また、井浦委員が挙げられた勉強会についてですが、私としては、笑顔のつどいは子どものためのものというよりも、大人が学び成長していく生涯学習の場であってほしいと思いました。

松本議長：

通学合宿の発表についての感想を読ませていただいて、地域で子どもたちを育てることが大切で当たり前前の事なんだという、そういった意識づくりが浸透したという意味では、よかったですと思いました。発表の中でもありましたが、登校拒否の子どもたちの問題解決にもつながっていく、一つの道しるべなのではないかと思います。

角森委員：

子どもを育てるという部分が核にありながらも、様々な世代が関わっているということが見えるのが笑顔のつどいだと思います。世代を超えて、どうやったら穏やかに暮らせる地域になるかを考えることができる場だと思います。

井浦委員：

私は、子どもをターゲットにしたイメージではなく、笑顔のつどいは勉強会でいいと思っています。社会教育主事を助言者に呼びまとめることで、参加者が発表団体の活動内容や成果を、より実感できると思います。しかし、アンケートには「子育て中の世代が、地域に関心をもってこのような活動に参加するにはどうすればいいのでしょうか。」という投げかけも見られます。これを読んだ際に、青柳校区通学合宿は地域の方々に関わることで、子育てをやってきているということが、来て発表を聞けばわかるのではないかと思いました。ただ、そこに気づかれていない方がたくさんいらっしゃいます。チラシの配布のあり方や、仕掛けのあり方を見直すべきなのではないかと思いました。

松末副議長：

子育て世代をターゲットにするのであれば、例えば託児を設けるだけでも、チラシは子育て中のお母さんの目に留まると思います。今回の発表内容は、子育て中のお母さんたちには遠いものであったかもしれ

ませんが、それでも学んでほしいという意思をこちらから渡すためには、このような工夫が必要ではないかと思えます。

船越委員：

どのような団体に発表していただくかが、非常に重要だと思います。参加者の方からは、古賀市に、こういう団体があるということを知らなかったのが、発見できたことが良かったとの意見を多くいただきました。ただ、実際につどいに参加していただくための、一歩外に踏み出すまでの工夫や手立てを、今後も皆さんと考えていきたいと思っています。

村山委員：

オープニングで使用する写真ですが、生涯学習活動をされている団体に呼び掛けて募集をするのも一つの手だと思います。写真参加をしていただくことで、少しでも笑顔のつどいに関心を持っていただけるのであれば、こういった工夫も必要かと思えます。

平島委員：

笑顔のつどいの1週間後に、人権とPTCAによる催事が行われました。そこでは、我々が普段見かけないような若い世代の方がたくさん参加されていました。若い世代の参加という部分に着目した場合、PTCAによる活動を発表していただくのもいいかと思えます。そうすることで、今までとは異なる年齢層の方々が、古賀市の生涯学習について学ぶきっかけになると考えます。確かに、つどいに参加しやすいのは僕らのような50代以上かと思えますが、将来を考えた場合、若い世代に学んでもらうということが必要だと思います。

松本議長：

今後の笑顔のつどいの方向性についてですが、第5回目も終わりましたので、抜根的な見直しも必要かと思えます。第1回目の笑顔のつどいを実施するにあたって、開催形式としては3つの方法があがりました。1つ目は有名な講師の先生を呼ぶという方法、2つ目は現在実施しているような、地元で活躍されている団体をお呼びしての団体同士の交流、3つ目がワールドカフェ方式で行うというものでした。発足当初の意見等も振り返りながら、今後のつどいの方向性について考えていきましょう。

では、協議事項はこれで終了します。「3. その他」に移ります。まずは各委員からお願いします。

(國友委員から劇団DAICOONの公演についてご案内。)

松本議長：

では事務局からお願いします。

(平成30年度福岡ブロック社会教育委員研修会の開催および、平成30年度第48回九州ブロック社

会教育研究大会熊本大会について案内。)

松本議長：

質問等がなければ、終わりの言葉を松末副議長からお願いします。

松末副議長：

お疲れ様でした。